

〔義經記七〕平せんじ御見物の事

富権が城をみれば、三月三日の事なれば、かたはらには、まり、小弓のあそび、かたはらには、鳥あはせ、又くはんげん、さかもりと打見えて、酒にゑひたる所も有。

〔房總志料上總附錄〕一夷隅の俗、上巳に戸戸小蒜を檐に狹みぬる事、端午の菖蒲に同じ、蒜なれば、かゆるに葱を以てす、來由詳ならず、源氏物語に、こくねちのさうやくといふ事みゆ、かゝる事の轉せるにや、

〔皇大神宮儀式帳〕一年中行事并月記事

三月例 三日節、新草餅作奉氏、太神并荒祭宮供奉、然後禰宜内人物忌等、集酒院、直會被給、

〔鹿島宮年中行事〕三日、大宮祭、大宮司月次ハ小別當

是時御供ニ草餅加奉備神前、人々モ三月節供草餅食スレバ、邪氣除無病ト云本文事多略ス、

〔世諺問答〕三月 問て云、三月三日に桃花の酒をのみ侍るは、何のいはれぞや、答人の國のことにや、太康○西晋帝年號年中に、山民建山自然武陵といふ所にいたりて、桃花水にながれしをのみしより、氣力さかんなりしかばいのち三百餘歳にをよべり、されば今の世に桃花をもちひ侍るとかや、酒をのむ事は、周の曲水の宴に、盃をながせしよりや、初りけん、

〔日本歲時記三月〕三日 今日艾餚を食し、桃花酒をのみ、艾餚を親戚にをくる。○中略桃花酒をの

む事、月令廣義に法天生意を引ていはく、三日桃花を取て酒にひたし、これをのめば病を除き、顔色をうるほすとなん、桃花を酒に浸さば、ひとへなる花を用べし、千葉の花を服すれば、鼻効いでてやまずと、本草に見えたり、

桃酒

神社上巳

〔俳諧歲時記三月〕桃の酒 三月三日、桃花一斗一升を探り、井花水三升、麴六升、米六斗、これを以よく炊ぎ、酒に釀してこれを飲ば太よろし、千金方、